

# 耐性菌のこわーい話 第二回

## ～ MRS(メチシリン耐性ブドウ球菌属)の検出状況 ～

1 スタッフとのミーティング……



以前より、細菌検査を依頼していますが、どのような菌が多く検出されているのですか？



これが、多く検出されている菌だよ

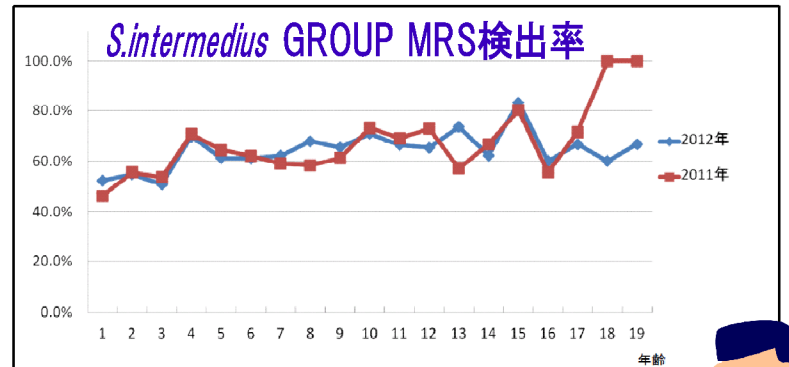
<i>Escherichia coli</i>	21.0%
<i>S.intermedius</i> GROUP	18.6%
<i>Corynebacterium</i> spp.	10.4%
<i>E.faecalis</i>	8.8%
<i>P.aeruginosa</i>	6.8%
Group G <i>Streptococcus</i>	6.2%



*S. intermedius* GROUP は、イヌ膿皮症の起因菌ですよ

2

でも、困ったことにイヌ膿皮症のMRSの検出割合が *Staphylococcus intermedius* GROUP では約60% *Staphylococcus schleiferi* では約40% と多いんだ



また、年齢にかかわらずMRSは検出されているんだ

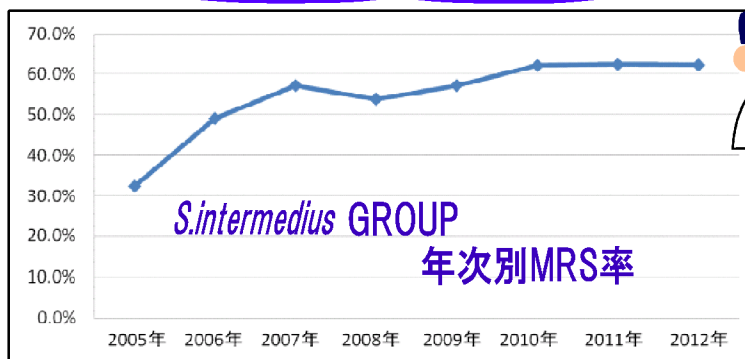


3



でも、どうしてですか？

抗生剤は動物でも多く使われ、第一選択薬としてセファロスポリン系とβ-ラクタム系の薬剤が多く用いられているため耐性菌の出現が促進されたと思われるんだ



4



これからは、検査や治療に細かな対応が必要ですね

そうなんだ  
感染症治療では、安易に抗生物質を投与するだけでなく、事前に細菌検査を行い、治療に適した抗生物質を使用するべきだね！



第24回日本臨床微生物学会総会「伴侶動物におけるメチシリン耐性ブドウ球菌属の分離状況」弊社発表データより

### ～細菌検査とMRS～

ブドウ球菌でβ-ラクタム系薬剤が効かない場合は、MRSを疑ってみてください。

- ★ 弊社では、全てのブドウ球菌が検出された場合には、MRSの判定を実施しております。
- ★ ブドウ球菌の種類によっては、MRSの判定する薬剤濃度が違うため、同定検査も動物種に合わせた判定をおこなっております。